

新建

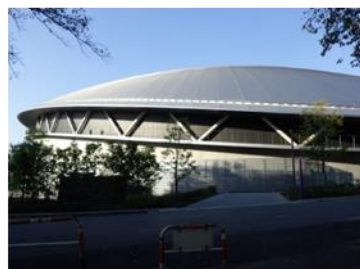
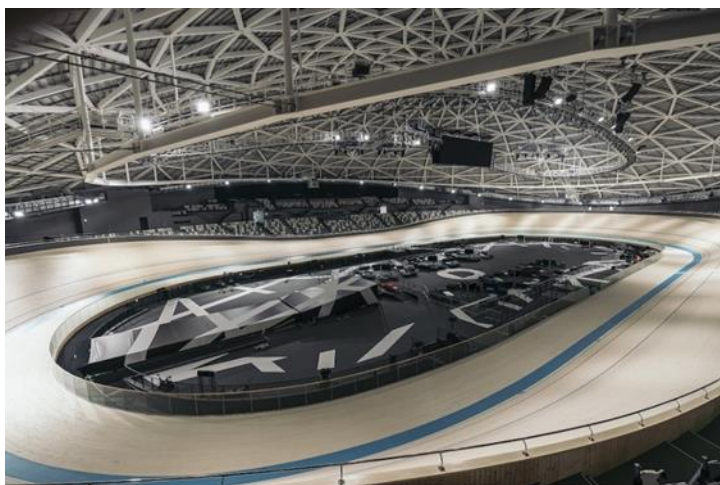
ちば

2022/11
No.286

新建築家技術者集団 千葉支部機関紙



ティップスタードームチバ・千葉市



業務で千葉公園の一角にある千葉競輪場（旧）に出入りしている。周辺の町内集会所は千葉市が建設しており、その耐震診断と補強設計を委託されたからだ。

競輪場は市の施設だったが、現在は運営会社 JPF によりドーム型競技場に建替えられ「ティップスタードームチバ」として昨年 10 月から開業している。たまたま近隣で住宅建て替えの設計監理（施工は会員のかしのき建設）をしていたので、建設中からドームの骨組みを眺めていた。リングシェル構造を採用した大屋根が特徴でメインアリーナ内には柱が一本もない。内側から見る迫力はすごい。外観も内観も洗練されたデザインだ。設計施工は清水建設、さすが。バンクの距離は 250m と大幅に短くなった。「トラックレースとしてのケイリン」に対応し、国際大会も開催できる。ファンが高齢化していた「競輪」から脱却し、若者を取り込む狙いがあった。ところが現時点では売り上げは想定の四分の一と振るわない。車券の購入手段をオンラインに限定したからだ。高齢者の多い元々の競輪ファンには難しいだろう。市は専用アプリ以外でも購入できるよう見直しを検討しているという。

（文、写真：加瀬澤 文芳）



* 目次 *

・ 目次・企画予定表	2
・ 2020建築とまちづくりセミナー・茨城報告	3
加瀬澤 文芳 中安 博司	
・ 集合住宅によるまちづくりと技術開発02	6
泉 ヒロヨシ	
・ 世界まち歩き32・モロッコ大周遊～フェズ	8
高山 登	
・ 創宇社建築会結成100年の年に向けて	11
近況報告を兼ねて 佐藤 美弥	
・ 事務局だより	12

ちば

2022年11月号

No.286



企画予定表

月	支部企画 住まいづくり研究会	その他企画	全国・近県支部 その他企画	その他 支部幹事会
11月				10（木）20：00～ 支部幹事会＋交流会
12月	支部総会・忘年会			
1月	新年会			12（木）20：30～ 支部幹事会＋交流会
2月				8（木）18：30～ 支部幹事会＋交流会
3月				9（木）18：30～ 支部幹事会＋交流会
4月				13（木）18：30～ 支部幹事会＋交流会
5月				11（木）18：30～ 支部幹事会＋交流会
6月				8（木）18：30～ 支部幹事会＋交流会
7月				13（木）18：30～ 支部幹事会＋交流会
8月				10（木）18：30～ 支部幹事会＋交流会
9月				14（木）18：30～ 支部幹事会＋交流会
10月				12（木）18：30～ 支部幹事会＋交流会

2022 建築とまちづくりセミナーIN 茨城報告

加瀬澤 文芳

9月11日、12日茨城県水戸市で開催された建まちセミナーに参加してきました。コロナ禍以来リアル集会は本当に久しぶり。千葉からの参加は中安さんと私の二人だけでしたが、総勢66名の盛会？となりました。やはり実際に集まっての企画は画像の中だけの交流にはない楽しさと充実感がありました。

講演 原発ゼロ社会の議論をはじめよう・乾 康代

講師の乾康代表幹事は昨年東海村村長選に立候補して現職に敗れている。茨城県や村の委員を歴任しているが反原発の先頭に立っている。講義は東海村と世界の原発立地地域の比較から入り、国策原子力と村の都市計画、再生エネルギーと原発、ドイツブミン村の脱原発状況と展開し、最後は原発ゼロ社会の議論をはじめようと呼びかけました。中で印象に残ったのが村の都市計画でした。海岸沿いに原発が位置し、内陸側に四つの工業地域が村の住居地域、商業地域を囲むように配置されています。住民の意思とは関係なく計画されたことがわかります。当所は原発の周辺地域は緑地が広がっていましたが、現在はすぐ近くまで住宅がスプロールしてしまい、きわめて危険な状態です。しかも原発事故以来ろくに稼働していない。必然工業地域の企業も動いていない。廃棄物処理のあてがない状態で稼働できる見通しがつかないのに再稼働に向けた工事が進んでいるのです。何か異様な印象がしました。現在東海村は人口

3万8千人程。村の基準である5千人を大きく超えています。町に昇格する意思はありません。昇格すれば財政的に優位なはずですが原発立地関連で補助金が豊富につき込まれるので、その必要がないのです。村の文教施設は充実しています。





村庁舎屋上から見た原発。再稼働に向けた工事が進む。近くまで住宅が広がっている。

最後に11月1日毎日新聞記事の小泉純一郎談話を紹介します。「原発推進論者の3大大義名分、クリーンで安全でコストが安いは全部うそ。日本は地震津波火山があって原発をやってはいけない国だ。太陽光、風力、水力、波力、地熱もある。日本は自然エネルギーの資源大国なれるんだ。」

中安 博司 学生時代から茨城と関わりがあり、アルバイト先の設計事務所でひたちなか市（旧勝田市）の公園設計や国営ひたち海浜公園（旧水戸射爆場）の構想案、鉾田市ほかの都市計画調査に関わり、独立してからは福島に近い高萩や北茨木市に施工者の案内でクライアントと一緒に森林や製材所見学に行き、子供を連れて袋田の滝やひたち海浜公園、那珂湊おさかな市場、偕楽園、鹿島神宮などにお邪魔しました。大洗に向かう国道51号線は海岸近くの部分もあり気持ちの良いドライブコースです。



さて

第二講演 はじめよう集住空間のあり様を問い直す・藤本 昌也

1960年代から近年までの仕事を紹介しながらその時代の問題やそれに対する解決策を解説されました。1968～2009 広島県基町高層応層アパートでの街の立体化(街の内包、立体街路、街に開くピロティ、屋上庭園など)、大高正人のメッセージ「建築は人を幸せにするためにある」、1975～76 茨城県営六番池団地、1977 会神原団地(接地性、コモンガーデン、屋上



テラス、傾斜屋根など)。近年では 2000～2008 宇部プロジェクト第 1 期(市街地再生事業)に始まり 2002 静岡市池田の森農園クラブ、2008 福岡市サトヤマビレッジなど自然環境を意識した取組みが増えているようです。これまでの氏の講座でも提案された住まい・まちづくり作法(計画論＝居住とサービスのあり方を提案、空間論＝計画論を受け止める都市空間、建築空間の提案、事業論＝上記 2 つの提案を実現可能とする事業所法の提案)を示され、これからの都市再生について「空地进行を主役にした魅力的な都市再生に取り組み」、「人と自然、人と人の関係を抜本的に見直す時代」と結び、新建で討議する必要がありますと強調されました。

翌日、会神原団地を見学会。2、3 階のメゾネット住居内部は LDK の天井が高く、明るい屋上テラスに面しており気持ち良く暮らせそうでした。ただ、公共施設に共通するメンテナンス不足で汚れや痛みが目立つことは残念です。また、建設位置もあり空室が増えているとの事でした。

見学は東海村(東海村役場、歴史と未来の交流館、原発再稼働工事の現状など)から岩崎駿介氏のご自宅・落日荘を回るという盛りだくさんのセミナーでした。



集合住宅によるまちづくりと技術開発－０２

新建千葉支部会員 泉 ヒロヨシ

・ゴミ処理方式

一般家庭で、毎日出し入れのあるのが、郵便物や荷物の配達と台所の廚雑芥の処理だ。集合住宅の場合は地域面積当たりのゴミ量が多いから、ゴミ収集の方策については、当初から公共団体との協議が行われ、様々な集積方法が考えられてきた。郊外の中層住宅の場合は、階段室踊り場脇のゴミ投入ダクト口からごみを投入すると、そのまま直下のゴミ収集ボックスに落下し、貯留された。貯められたゴミは週２回、クレーン付きのゴミ収集車が回ってきて、クレーンにより回収。しかし、現在は、クレーン方式は廃止され、袋詰めして集められ、手作業で収集車に搭載し回収されているようだ。（定点・定置収集方式）



階段室踊り場のゴミ投入ダクト、今は閉じている



現在は、ゴミボックス脇に集められ、収集車が回収？

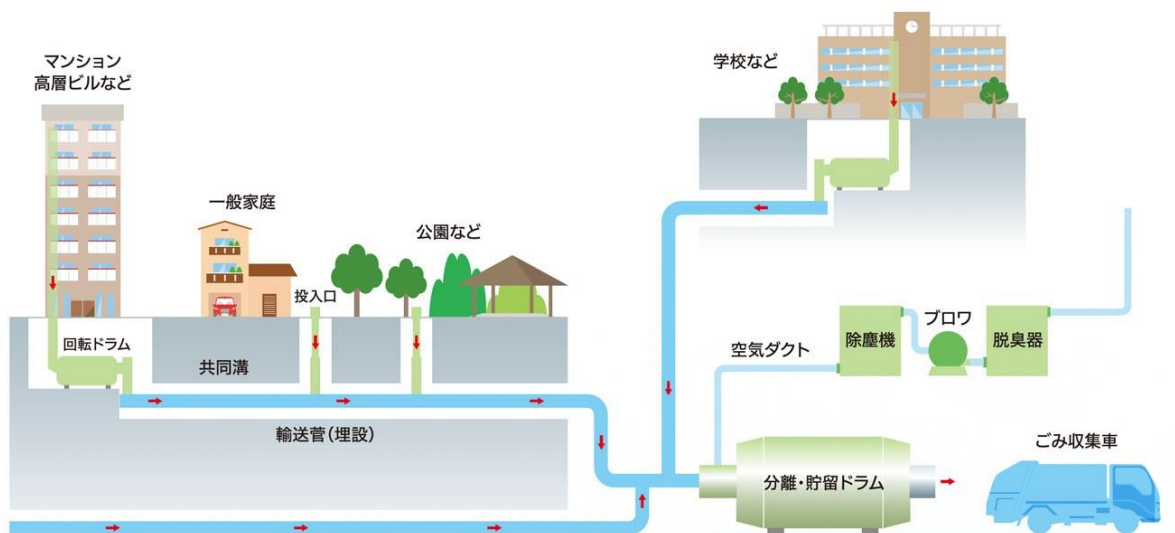
次いで、市街地の高層住宅の場合。基本的な考え方は変わらないが、多層化した住棟の投入ゴミは、収集ボックスの容量が大きくなる。そこで、ゴミ貯留ボックスをピロティー上部に持ち上げ（ホッパー）、その下に直接、車両を乗り入れ、ホッパー底部が割れ、ゴミを掻き出す方式となった。「ダスト・シュート・ホッパー方式」と呼んだ。



ただ、この方式も、ホッパーから直接、ゴミを掻き出す際に、作業中に作業員が落下物で負傷する事故があり、現在、ホッパーからドラム装置に直接ゴミを落とし込み、回転するドラムから、収集車にゴミを押し出して回収する方式が検討されている。（下図参照）

更に、ゴミの回収に回収車両が団地内を走り回るのを止めて、地中に埋設された配管により、ゴミが真空輸送されるようにしたのが「ゴミの真空集塵装置」だ。

国内で最初に採用したのは関西の埋め立て地のニュータウンだったと思うが、私に関係した団地開発としては海浜ニュータウンの幕張ベイタウンで採用された。



「ゴミ真空集塵装置」は一般化した名称ではないようだ。また単独企業で設置しているわけでもない。幕張では、配管は日本鋼管、ドラムは三菱重工が設置している。＊図は三菱重工 HP から転載

実際の稼働状況は、幕張のほかは長岡ニュータウン、東京臨海副都心（有明）などがあり、一方でMM21（横浜）、つくば市などでは廃止に至っている。管路輸送システムのメリット、デメリットを整理すれば、メリットとして

- ①いつでも出せる利便性、
- ②悪臭防止や美観保持の衛生性、
- ③危険防止の安全性、

などがあげられるが、デメリットとしては

- ①運営に多額の費用がかかるコスト高、
- ②維持管理費や修繕費の費用が掛かるメンテナンス費用、
- ③分別収集に対応できないため、再利用、再生利用に不利、

と言った点があげられる。実際に、幕張ベイタウンを管理する管理センターに聞くと、現在輸送管の修理中という事だった。幕張では輸送管は共同溝の中に設置しているが、隅角部では地中埋設とせざるを得ないが、その部分に破損箇所が出る、と言う事だった。

ゴミの収集は都市活動の静脈であり、陽の当たる分野ではないが、欠かせない都市活動機能であり、美観に配慮しながら活動する真空集塵装置は、将来的にも有効な方式だ。

Ⅲ] 世界遺産 旧市街フェズ・エル・パリ

青い町シャウエンから南へ約 230 km の町フェズ。この町は 2 つの旧市街フェズ・エル・パリ、フェズ・エル・ジェディドと新市街 Nouvelle Ville の 3 地区からなる。フェズは 1911 年から 1956 年までフランスの保護下に置かれた。メディナ（注 1）の旧市街の規模は世界最大で細かい路地が網の目のように張り巡らされている。世界一複雑な迷路の町である。モロッコで最初のイスラーム王朝イドリス朝の都で 808 年に建設後交易の中心として栄え続け、1000 年以上も前に建設された街並が今も残るといふ。どのようにしてこれほど古い街並みが残ることができたのだろうか、驚きである。

写真①はビュースポットである南の砦からの眺めで、旧市街を一望できる。建物が所狭しとひしめき合い、周囲 10 km のこの町は、なんと 30 万人もの人々が生活しているという超過密都市である。

注 1）メディナとは：北アフリカのアラブ民族の都市

写真①：台地から隆起して出来たような茶褐色のフェズの町全景



1. 城壁と門

王は大事な町には必ず城壁と門を造り、門は夜には閉められたという。旧市街の入口には 12 世紀建造のフェズ最大のブー・ジュールド門がある。壁面は幾何学模様での装飾が施され、メディナの外側はフェズのシンボルカラーの青（写真②）、内側はイスラーム教の神聖な色とされる緑（写真③）で彩られている。メディナで一番美しいといわれる門で、この内側の町はなんと 1000 年前の世界がほとんど変わってないという。

写真②：ジュールド門の外側は青基調の装飾



写真③：バブルジュールド門の内側は緑基調の装飾



2. 9400 の通り

スーク内に一歩足を踏み入れると、まず人々の熱気に圧倒される。小さな路が縦横無尽に走り、自分の立ち位置がわからなくなる。ここはなんと 9400 もの通りがあるという。とにかく細い路地で構成されていて天空も狭く、方位の確認は不可能になる。

スーク内は車の侵入はバイクも含め禁止されているようである。自転車も見当たらない。荷物の運搬手段はすべてロバやラバに頼っている。その路地の糞は放置されたまま、注意を払わないで歩いていると大変なことになる。

写真④：民芸品の店舗が集中したスーク



写真⑤：スーク内の唯一の運搬手段はロバ



3. 革染色職人街「タンネリ・ショワラ」の作業場

タンネリとは革のなめし場のことで、革染職人街を形成している。円い染色桶が並ぶ中世そのままの手仕事の作業場では、まず牛やヤギ、ラクダの皮から毛を取り除くため、白い石灰の中での作業がされ（写真左）、その後色のついた桶で染め付けている。ヨーロッパの高級ブランドの多くが手仕事のモロッコ革にこだわるという。

作業場は広範囲にすさまじい異臭を放す。この現場を見るには異臭緩和用にミントの葉が支給され、鼻の穴に詰めてからで参加者は皆大笑いしながらの見学となる。

写真⑥：色とりどりの絵の具が入ったパレットのような光景



4. 漆喰彫刻とモザイクタイル

王宮や霊廟、城門など大きな建物は皆、内外装も鮮やかで精緻な漆喰やモザイクタイルで装飾されている。モザイクタイルは製造する工房で見学することはできたが、漆喰装飾はどのようにして創作されるのか不明であるが、その精巧さには驚かされる。

写真⑦：9世紀イドリス廟の外壁の漆喰装飾



創宇社建築会結成 100 年の年に向けて ——近況報告をかねて

佐藤美弥

私はもともと学生時代から日本近現代史を専攻し、歴史学の視角から創宇社建築会について研究してきました。20 世紀の都市に生活する人々の文化的な活動として、とても興味深い動きであると考えたためです。大学院に進学してからは、創宇社に関する資料を所蔵する竹村文庫の資料を閲覧する機会をいただくようになり、その当初から鈴木進さんに資料についてご指導をいただきました。また創宇社をテーマに博士論文を提出した 2010 年以降は、定期的に竹村文庫の会合をもち、竹村文庫の資料を収集した竹村新太郎のご子息の健夫さん、岩瀬昌照さん、鈴木さん、三国政勝さんをはじめ、みなさまに大変お世話になっています。

2012 年 4 月から埼玉県教育委員会に博物館学芸員として勤務することになり、埼玉県立歴史と民俗の博物館や埼玉県立文書館に所属しました。仕事は埼玉県の地域資料の管理や展示企画・運営などでした。創宇社の研究とはやや距離があるものでしたが、資料の保存・活用の経験は、竹村文庫の資料を研究に使用するだけでなく、どのように保存し、将来に継承していくか、ということについて考えるよいきっかけになりました。

学芸員としての勤務と平行して、創宇社についての研究も進めることができ、新建でも『建築とまちづくり』での連載や、新建 50 年の大会での講演の機会をいただき、大変得がたい経験でした。そのうえでさらにいろいろ展開をと考えていましたが、そ

の後新型コロナウイルス感染症の影響もあり、思うようにいかなかったのは残念なことでした。

2022 年 4 月から、縁あって名古屋市立大学大学院人間文化研究科（人文社会学部国際文化学科）で働くこととなり、埼玉から名古屋に転居しました。歴史学の研究経験と、博物館やアーカイブズに勤務した経験をもとに、文化財の保存・活用や人文学と情報にまつわる授業などを担当しています。

私は秋田県出身で、大学に入学してからは長く関東で生活していましたので、名古屋は縁遠かった土地です。大学での仕事もなかなか忙しく、街歩きをする機会もまだ少ないのですが、これから、戦前期以来の土地区画整理や戦災復興の都市計画によって特徴づけられた街のようすや、戦災や開発をくぐり抜けて残る近代建築などを探索していきたいと考えています。

ところで来年 2023 年は創宇社結成から 100 年という節目の年にあたります。これまで竹村文庫の貴重な資料を長く保存・活用していくためにと、竹村文庫のみなさんと相談しながら、保存容器の入れ替えや目録の整備を進めてきました。創宇社 100 年にあたって、そうした竹村文庫の資料の価値を発信し、今後の保存・活用に資することができればと考えています。具体的には、創宇社が結成された秋頃を目指して、創宇社をテーマとした資料の展示会やセミナーを開催するというものです。大々的な催しは難しいかもしれませんが、できる範囲で身の丈にあった企画を、と考えています。ぜひ、新建ちば支部のみなさまにもご協力をいただければと思っております。今後とも、ぜひよろしく願いいたします。

新建の活動と企画

千葉支部の動き

○支部幹事会＋交流会

毎月第2木曜日定例で行います。どなたでも参加できます。直前に支部会員MLに ZOOM 会議招待の URL を送ります。クリックして参加してください。

○WEB ちば塾

幹事の持ち回りで原則隔月第1金曜日に開催することになっています。幹事会にて検討中。

○千葉建築・街並探訪

年2回程度(候補地：東金、市川、行徳、三里塚など)→コロナ後再開します。

○支部総会

例年通り12月最初の休日に行うことになると思いますが、詳細未定です。11月幹事会で話して決めたいと思います。リアルで行うのか皆さんのご意見を聞いてみたいです。確定次第メールにてご案内します。

以上お問い合わせは事務局まで。

事務局だより

茨城セミナーの様子の記事に紹介しています。ご一読ください。表紙当番は村田さんでしたが、やむを得ない事情で急遽加瀬澤が代役しました。仕事の打ち合わせでティップスタードームに頻繁に訪れているのです。明日も行きます。競輪に興味があるわけではないのですが、あまりに素晴らしいデザインだったので紹介しました。村田さんにはあらためて登場していただきます。携わっている建築Gメンの活動についても投稿していただきます。企画は未定ばかりですみません。リアルでやれたらいいと思っています。(加瀬澤)

新建千葉支部事務局：株式会社 ゆま空間設計

TEL:043-253-8801 FAX:043-253-8806

千葉市若葉区みつわ台5-4-14

E-mail: office@yumaku-kan.co.jp

新建千葉支部ホームページ : <http://www5e.biglobe.ne.jp/~shinken/chiba/>

発行：千葉支部幹事会
編集：千葉支部幹事会
編集ワーク：中安博司

編集後記：11月に入り今年も後僅か。茨城でのセミナーはリアルで行われ、直接人と接する事の楽しさを再認識しました。千葉での集まりもそう出来ればと思いますが？(中安)